

平成23年3月11日のあの日から6年…

多くの人命と日常生活を一瞬にして奪った未曾有の東日本大震災から6年が経った。被災地は復興に向けて着実に進んできているが、12万人以上の人たちが未だに避難生活を強いられている。そうした中、死者15,893人、行方不明者2,553人。『ケアホーム希望』を利用している Oさんの息子家族は気仙沼でその震災に見舞われた。優しいお嫁さんと愛する孫2人を一瞬にして失ってしまった。家族の悲しみは消えることなく今も続いている。昨年、夫の介護が大変になり、Oさんの夫は やむなく特別養護老人ホームに入所することになってしまった。震災から6年目の今日は夫婦別々の場所から亡くなった孫たちの冥福を祈り続けている。そして、私たち職員もこうした多くの尊い命が奪われたことを忘れてはならない。



悲しみは消えない…

Tさんは妻を病気で亡くしてから 2年が経つ。娘家族と同居しているが、昼間は独居であり週に3回「ケアホーム希望」に通ってきている。いつも持ち歩いている黒い鞆の中には妻の遺影写真が入っていて、日課は、賑やかな中で読書をするのが大好きで「生きていることを痛感する」と言う。Tさんの自宅にふと訪問すると、妻の遺影写真を見ながら涙ぐんでいる。声をかけると「まだ迎えに来てくれないんだよ…。」「妻のように病気で亡くなるならいいが、震災で一瞬にして愛する人を亡くした人たちは 孤独と悲しみに苛まれながら生き続けるんだから辛いよね…。」ふと漏らしたTさんの言葉は大切な人を亡くした人だからこそ言える言葉だった。



寂しくとも前へ…!

私は「ケアホーム希望」の職員として祖母の介護と仕事の両立をしながら104歳になる祖母を昨年看送った。幼い頃、私たち孫を可愛がって育ててくれた祖母は 最期の最期まで私に迷惑をかけず静かに天国へと旅立った。

今は、夜中に大きな声で叫ぶ声も もう聞けないから…
美味しそうに大好き煎餅をかじる姿も もう見れないから…
喧嘩して仲直りと手と手で触れることも もうできないから…

私はいなくなった祖母を心のどこかで未だに探している。そして寂しくなった時に携帯電話に残された祖母の姿や声を探し、もう一度会いたいと涙ぐむ…

そんな時「ケアホーム希望」を利用しているおばあちゃんが私の手に触れ、一歩前に進めるように支えてくれて、今日も介護の仕事を頑張ろうとしている私がいる…



ひなまつり

私も
お雛様に入れてよ

お内裏さまが多いなあ…
オレが一番かな
エヘッ



ありがとう

祝74歳

誕生日と一緒に
祝ってくれて ありがとう!

おばあちゃん
甘いのが好きだから
ホイップ たっぷりに!

**3月の
誕生日会**

祝86歳

ねえちゃん
こんな大きな
プリン食べきれんね

祝95歳

新規利用者ご紹介

昨年の9月から入院生活が続き、やっと家に帰ってくる事ができました。
病院では病人にされていたけど…

今は『ケアホーム希望』
を利用しながら早く
元気を取り戻し
たいと思ってます。

絵を描いた、折り紙を
折ったりと 手先が
器用なんです



介護福祉士の国家試験に合格しました。

介護のことを何も知らぬまま
この世界に飛び込み 3年が経過。
一人前の介護職員となれるよう
これからも頑張ります!



合格おめでとう